

学校教育目標	みんなが楽しく過ごせる学校づくり
育成を目指す資質・能力	表現力(説明力)の育成

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p><5年…国算理>全教科、ほとんどの領域において目標値を上回っている。国語の連体、連用修飾語の区別、算数の文章題の読解、理科は水の温まり方が今後の課題。</p> <p><6年…国算>全教科とも県平均、全国平均を上回っている。国語はいくつかの資料を読み取り条件を満たしての作文、算数は複数のグラフを読み取り、説明する問題が課題。</p>	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p>○基礎的な内容は定着しているが、個人差が大きい。</p> <p>○要点や自分の考えを記述することは、比較的できている。しかし条件に沿って書くことに対しては、難しく感じる児童がいる。いくつかのグラフや文章から読み取ったり、条件が複雑になったりすると、いくつかの条件を正しく書けなかったり、どのように書いていいのか混乱してしまう。</p> <p>○児童によっては問題文が長くなると正しく読み取ることが難しい。</p>
	<p>これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)</p> <p>○友達の発言の内容を繰り返して言わせたり、要約させたりする活動を授業に取り入れているが、大事な事を落とさず聞くことができない。</p> <p>○長文問題について、授業の中で大事などところに印を付けさせたり、図に表せたりするよう指導しているが、何を問われているのかを正確に捉えることができない。</p>	
指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況</p> <p>○各教科で、「分かった」「発表できた」「説明できた」と児童が納得する授業構成の創造と実践。</p> <p>○授業者による、児童の考えがふくらむような分かりやすい説明、児童はしっかり聞く指導の徹底。</p> <p>○課題は青枠、めあては白枠、まとめは赤枠で統一し、学年が上がっても見やすい板書づくりの実践。</p> <p>○授業の最後にキーワードを確認し、キーワードを入れてまとめる。</p> <p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</p> <p>○家庭学習での日記や条件作文による「表現力」の育成。</p> <p>○児童の学力定着状況をしっかり把握し、定着が十分でない児童への「放課後タイム」での個別指導の継続。</p> <p>○人間関係づくりプログラム「ほっとはーとおおみち」の活動を通しての、児童同士が積極的に対話する場面づくり。授業の中で、相手に自分の気持ちを伝える表現力の育成。</p>	



<p>学力に関する達成指標</p> <p>○国語と算数の単元テストにおいて、A判定(80点以上)の児童を85%以上にし、C判定(60点未満)の児童を3%未満にする。</p>



今後の具体的な取組	<p>【授業改善】</p> <p>〈授業改善のテーマ・重点〉</p> <p>認め合い、支え合いながら、学ぶ楽しさを味わう子どもの育成 ～自分の考えをもち、伝え合う活動を通して～</p>	<p>【家庭・地域との協働】</p>
	<p>〈取組内容〉</p> <p>自分の考えをもち、伝え合う活動を充実させた授業づくり</p> <p>①学びの成果の実感 ②伝える力の育成 ③最後まで諦めず解決しようとする態度の育成 ④個に応じた補充学習の充実</p>	<p>〈家庭・地域の取組内容〉</p> <p>家庭と学校が連携して取り組む「児童の良い習慣づくり」</p> <p>①家庭学習の習慣化 ②「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化</p>
	<p>〈取組指標〉</p> <p>①授業の中で、条件(キーワードの言葉)を使って、まとめや振り返りを書く活動を週2回以上取り入れる。</p> <p>②授業の中でペアやグループトークに1日1回以上取り組ませ、全体での発表では皆に意見が伝わるために「声のものさし」を提示し児童に指導する。</p> <p>③ドリルや習熟問題の後、単元末テストを行い、やり直しに必ず取り組ませ、児童に達成感をもたせる。</p> <p>④放課後タイム(15分間)の実施計画を通信に掲載し、運営について毎週の学年会で評価する。</p>	<p>〈家庭・地域の取組指標〉</p> <p>①「学習のきまり」を基に家庭学習の方法を確かめ、毎日の家庭学習の声かけを行う。</p> <p>②毎週の学年通信を必ず読み、学習予定を確認する。</p> <p>③毎日の連絡帳に、睡眠時間を記入してもらい、生活リズム作りの声かけを行う。</p>
	<p>〈検証指標〉</p> <p>①児童アンケートにおいて「学校の授業で『分かる』『できる』と感じることができた80%以上</p> <p>②教職員アンケートにおいて「授業でのペア・グループ学習を工夫したり学び合いの場を設けたりすることで、子どもたちに「分かる」の充足感を味わわせることができた80%以上</p> <p>③児童アンケートにおいて「放課後タイム等で分からなかったところやできなかったところが『分かる』『できる』ようになった」80%以上</p> <p>④保護者アンケートにおいて「放課後タイムは子どもたちの学力向上に役に立っていると思う」80%以上</p>	<p>〈家庭・地域の検証指標〉</p> <p>①保護者アンケートにおいて「平日決められた時間家庭学習に取り組んでいる」80%以上</p> <p>②保護者アンケートにおいて「子どもは早寝・早起きに気を付け、朝ごはんを食べている」80%以上</p>
	<p>【授業改善以外の学力向上の取組】</p> <p>○「大分っ子」学習力向上担当による、休み時間を使っての補充学習。</p> <p>○放課後15分の「放課後タイム」での個別指導で習熟に応じた指導の実践を今後も継続。</p>	